

浜田安芸高田市市長を囲んで

『まちづくり懇談会を開催』

- ・安芸高田市の税金の滞納状況と滞納整理の現状は？
- ・可部バイパス完成後の安芸高田市の表玄関となる上根地区の将来構想は？
- ・土師ダム周辺の維持管理の強化は？

など多くの質問や意見・提言をしました。



37名の参加がありました

浜田市長・市幹部職員の方から、丁寧に具体的な回答がありました



上根・向山地域振興会では、浜田安芸高田市市長を囲む「まちづくり懇談会」を十二月十八日、午後七時から二時間、上根集会所で開催しました。合併後、毎年開催してきた懇談会も今回で五回目の開催となります。

今回も懇談会の質問や意見・提言は、限られた協議時間を有効に利用するため、事前に総務部構成員（区長）を通じて住民の皆さんからいただいた七件の質問などを中心に行いました。

「まちづくり懇談会」は、まずは浜田市長から、市政方針や市が取組んでいる主要事業について二十分程度のお話をさせていただきました。以下浜田市長のお話を抜粋して報告します。）

きびしい財政状況の中

協働のまちづくりの推進

アメリカの経済危機の影響により、安芸高田市も今年度税収が当初と比べて一億二千万円減収する見込みです。このようなきびしい財政状況ですが、協働のまちづくりは引き続き推進していきます。

在宅介護の充実したまち

少子高齢化社会が進み、安芸高田市も介護福祉を支える人材が不足するため、若い人に定住してもらわなければなりません。それには教育環境を充実していくことが大切です。

今後の介護の方向性は、施設介護から在宅介護に移っていくと思います。男性も女性も勉強して介護の知識を持っていたら、在宅での介護に役立ててもらいたいです。私は、これを「市民全員ヘルパー構想」と考えています。初期的な介護協力は市民の皆さんにお願いし、高齢者が高齢者を介護するといった現状がある中で、住宅のバリアフリー化の支援など、行政ができることはしっかりやっていきたいと思っています。

予防対策の充実

医療・介護費用を節約するためにレセプト点検などを実施し効果をあげていますが、今後は病気になるらない、介護を必要としない予防対策に力を入れることによって、医療・介護にかかる経費を削減していくことが重要です。

行政と市民の協働により、何歳になっても安心して暮らせるまちにしていくことが私の目標です。

浜田市長のお話の後、先述の七件の質問について市長をはじめ市幹部職員から回答をいただいたとき質疑応答を行いました。質問と回答を抜粋して掲載します。）

質問 市の花（アジサイ）市の木（桜）を全市に植栽しては

市が苗木を用意し、各振興会からプラン（植えたい所）を出してもらって、各振興会のボランティアで植えていく。管理は振興会で行い二年に一度くらいきれいに管理ができていく所を表彰するようにす



れば、多くの地域でしっかりと管理してもらえることだと思います。お金をかけないで輝く安芸高田市がつかれると思います。

回答 市の特色ある地域づくり事業助成金」の利用を

なかなか良いアイデアをいただきました。

現在、総務企画部自治振興課では「特色ある地域づくり事業助成金」を振興会からの申請に基づき交付しています。これらの助成金等を利用していただき、地域振興会では様々な取組みを進めていただいています。その中で、花いっぱい運動や環境美化などにも取り組んでいただいている地域もあります。

今後は、地域の環境整備あるいは美化運動等のコンテストを実施し、表彰なども考えて行けば面白い取組みになるかもしれません。自治振興課とも連携して、今後、検討していきたいと思えます。

質問 安芸高田市の税金の滞納状況と滞納整理の状況は

全国各地において固定資産税・住民税・国民健康保険税などを滞納している住民が多という新聞記事をよく見かけますが、安芸高田市はどのような徴収を行っておられますか。

正直に納税しているものが、損をしないような公平な徴収をお願いします。

回答 法にのっとった厳正な滞納整理を行っています

市税をはじめとする滞納額は、十月末の税で約二億六千七百六十万円、使用料関係で約三千九百五十万円、合わせて三億七百万円程度あります。これらの徴収にあたっては、市内部に滞納整理対策本部を設置し、年間の徴収計画をはじめ徴収に取り組む方向付けを示し徴収業務を実施しているところとす。

これらの取組みの主なものとして、滞納者に対し、

- 差押（税のみ）
- 国民健康保険者証の停

止に代えて、資格者証・短期保険者証の発行

- 給水停止
- 住宅入居の不許可

○ 入札参加資格の不承認

以上のことを行っております。昨年度は、差押一二五件・資格者証五八件・短期保険者証一二九件・給水停止八八件・住宅入居不許可一件の処分を行いました。

質問 排水路の増設・改良について

大雨になるたびに旧農協根野支所横の水路が増水して、家の横まで浸かることがたびたびあります。その度に消防団にポンプで排水してもらい、土のうで水が入らないようにしてもらっています。

そこで、家に水が入らないような対策と、下流のヒューム管を大きくしていただき、水の流れを良くしてもらいたく要望いたします。

回答 現地で確認をしながら協議をしていきます

一昨年・平成十八年九月）の集中豪雨は、八千代地区を

はじめ市内の各場所で大変な被害をもたらしております。その後、被災箇所は復旧に向け、地元の方の協力も得ながら実施をしてきております。

このような中で、この排水路についても、八千代支所で現地を確認しながら検討をされているところではありますが、現況の水路は、県道より上流部分は三面張りのコンクリートの水路、県道部分はヒューム管で、それから下流については、少し小さいヒューム管になっております。地域の了解が得ることができれば、県道下流の柵から田んぼに降りる斜めの道がついていますが、その区間で新たな水路を設ける方法も考えられます。そうすれば、今度は田んぼの方へ水が多く流れ込む恐れがあります。いずれにしても、八千代支所と協議しながら進めて参りたいと思っております。

質問 可部バイパス完成後の安芸高田市の表玄関となる上根地域の将来像や将来構想をお聞かせください

可部バイパスの完成の見通しはいつごろででしょうか？可部バイパスが完成すれば、当振興会区域からの可部・広島方面への交通状況は劇的に

変化すると思われまます。通勤時間が大幅に短縮されることから、広島市近郊の住宅地として或いは工業用地としての需要も見込めると思っています。

市のきびしい財政状況を考えると、できる事業も限られるとは思いますが、民間事業の利用を含めて上根地域の将来像や将来構想（夢物語の部分があっても結構です）をお聞かせください。

回答 バイパス全面開通の効果は企業誘致などの施策にかかします

可部バイパスの状況ですが、可部バイパスは可部の太田川橋北側から大林町までの全長L九・七kmの計画で、昭和五十六年度から事業着手をし、現在桐陽台入口の市道山倉線までのL六・〇km六二％が供用されています。それから大林工区L二・四kmが現在工事中であります。三年後の完成見込みで、かなり速いペースで工事が進められています。その後、上根バイパスまで残りL二・五kmとなります。全線開通に向けて、国土交通省に要望活動を展開していきたいと思っております。市長就任後、既に三度の陳情も行っています。



バイパス開通に伴う将来構想についてですが、全面開通後は、本市と広島市とのアクセスに格段の効果が見込まれ、

定住促進の効果を含め、相当の経済効果が期待できると考えます。距離的な短縮効果以外に、可部を中心とした渋滞の解消など、時間的短縮効果も大きく、上根地域のみならず安芸高田市全体としても、国道五四号線を中心とした相当の経済効果の向上が図れるものと考えております。上根地域、また八千代町、更には安芸高田市がただの通過点とならないような対策に努めるとともに、バイパス全面開通による効果を取りまとめ、県や企業に働きかけを行い、最大限アピールすることにより企業誘致にも繋げて行く考えです。全面開通の効果も最大限生かすために、逆に言えば、当地域で何をすることが全面開通の効果とする最大限生かすことになるのかということを考え、地域の活性化を図ることを考え、地域の活性化に具体的な当該地域の「役割」将来

の夢」を、これから皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

質問 河川の堆積土砂の除去について

現在、上根地区を流れている川（野川）は長い間河川維持作業がされておらず、土砂が堆積し、大雨の時には堤防を超えて稲が冠水し、度々被害を出します。ヌートリアが多く棲みつき被害を被っています。早急に堆積土砂を浚渫してほしい。

回答 堆積土砂は危険度合いなどにより実施しています

河川の堆積土砂については、河川管理者がそれぞれ維持管理の範囲で実施しているのが現状であります。



簸の川は、県管理の河川で県の維持管理になります。毎年、年度はじめに、県と調整会議を持って事業箇所調整をしております。その後、県が現地確認を

して実施するようになりま
す。浚渫については、秋以降から年
度末にかけて施工します。

現地確認をして、堆積度合
いが少ないような状況であれば、
県も施工はしております。草
が繁茂して川底が見えないよう
なところもあります。県の助
成金制度もありますので草刈な
どは地元でお願いできないかと思
っております。

いづれにしても、堆積土砂は
危険度合いなどから、優先して
実施をしている状況であります。

質問 源田林道の維持修繕に
ついて

上根・日南下から始まって
いる林道源田線は整備されて
以来、特段の維持が行われて
いません。側溝に土砂がたま
り、排水が十分でないため本
道上を水が流れています。道がデ
コボココになっています。地権者



が土地を無償で提供し
て補助金に
よって整備
されたもの
であり、こ
のままでは
廃道になり
かねません。
早

急に側溝の清掃を含めた対応
をお願いします。

回答 地元（受益者）で対応
していただくようお願いいた
します

お問い合わせの林道の維持管
理については、これまで、
林道事業につきましても、林業
の施設計画、下刈り、除伐、間
伐等がございますが、必要性等
がある箇所についてのみ工事を
発注してきました。林道源田線
については、入り口から小学校
の上の部分まで舗装がされてお
りませんが、それから上部分につ
いては、未舗装の状況にあると
いうことはご存知のとおりであ
ります。このような林道の路面
の補修については、原則施設の
計画がされたところについて対
応することとしております。
また、側溝部分の清掃、枯れ
木、枯葉、土砂取り除き等につ
いては、地元、いわゆる受益者
で対応していただくことで、こ
れまで市民の皆様にご説明をし、
ご協力いただいております。
ご理解を賜りますようお願い
いたします。

質問 土師ダム周辺の維持管
理の強化について

土師ダム公園は、八千代町
民のシンボルの存在であり、
もう少し行政の方も維持に熱
意を持ってほしいと思います。
土師ダム周辺の桜などは大
切な自然資源であり、今まで
人的にも金銭的にも多くの投
資をしてきた大事なものであ
りますので、このまま予算を
削減しないようにしてほしい
と思います。

回答 老朽化した施設や不要
となった施設の改修または廃止
も含め検討します

土師ダムは、八千代のシンボ
ルであると同時に、安芸高田市
のシンボルでもあります。花見
シーズンは約二万人のお客
様をはじめ、年間約四〇万人の
来訪者を迎える状況となってい
ます。安芸高田市民だけでなく、
県内外の市民も憩いの場として、
総合スポーツ施設として利用さ
れています。

この間、公園等周辺環境維持
とターミナル等施設については、
年間四、四〇〇万円の経費によ
り管理を行っているところで



が、施設の
老朽化や多
様化する市
民ニーズの
中で、年々
集客数が減
少している
のが現状で
す。

現在、市

としまして
は、土師ダム管理所、地元の代
表の方と懇談会等を設ける中で、
どのようなしたら周辺施設が、
皆さんの憩いの場として、また
スポーツ施設としての利用が高
まるかということ、協議してい
るところです。公園等全体の
施設について、老朽化した施設
や不要となった施設の改修また
は廃止も含め、土師ダム周辺の
利用計画を協議しているところ
です。その中から一つでも新年
度から実施できないかというこ
とを、検討しています。土師ダ
ム管理事務所等と連携して策定
しているところです。

全体の利用計画ができた上で
維持管理経費についても、検討
していきたいと思っております。決
して削減する方向での検討とい
う意味ではありません。全体の検
討の中でということですので、
ご理解をいただきたいと思います。

都市住民との交流による棚田を守る活動

本郷の棚田を守る活動の一環として、昨年から休耕田（11a）を借り受けて振興会で耕作しました。今年度は少し借り受け面積を増やすとともに、都市住民との交流事業の中で人的支援を受けることによって、できるだけ機械に頼らない「手作り棚田米」の生産を通じた棚田保全活動を行いたいと考えています。

活動の事業内容は次のとおりです。

- ① 都市住民に農作業の体験をしてもらうため、田植えは手植え・稲刈りは鎌で行い、はで架け（自然乾燥）による手作り棚田米の生産を行う。
- ② この手作り棚田米（自然乾燥 + 棚田）を水車で精米することによって、（自然乾燥 + 棚田 + 水車）の付加価値がある手作り棚田水車米の販売を行う。
- ③ 25年の時を経て、花田植えを本郷の棚田で復活させる。

土師の花田植えは、土師地区がダムに水没して以来、中学校の運動会などで披露され継承されてきた。最近では、土師地区固有の花田植えにとらわれず、八千代の花田植えとして、町内他地域の花田植えも取り入れて伝承に力を入れている。今年度は、八千代町郷土芸能保存会田楽部の協力により、棚田交流事業での田植えの中で披露してもらい、水田での復活のきっかけとする。



「可笑屋」での交流・販売活動

稲作体験の募集は「可笑屋」と連携して

水車米の販売を行って可部町「可笑屋」と連携し、棚田での農作業体験者を募集します。棚田を守る農作業を通し、棚田保全に対する理解と共感を得ることにより、都市の消費者に「棚田を守り 農村を守る」ための情報発信を行います。

安芸高田市民フォーラム

水車米の販売・本郷の棚田保全活動を発表

平成21年2月15（日）安芸高田市民フォーラムが吉田町「クリスタルアージュ」で開催されました。市内6地域振興会から活動紹介、日々の活動を通じての提案や意見がありました。

当振興会からは「水車米の販売を通じた本郷の棚田保全活動」について、久保野副会長が発表しました。



地域マップづくりで実施したワークショップで、水車米や棚田保全の提言を受けて実施してきた活動と今後の取り組みについて、発表を行いました。

第6回グラウンドゴルフ大会

さわやかな秋空のもとで当振興会主催のグラウンドゴルフ大会を11月9日(日)午後1時30分から根野交流広場で実施しました。

今回で6回目の開催となりますが、子どもからお年寄りまで約110名、18チームの参加がありました。当振興会では「とにかく、できることを楽しく」をモットーに各種事業を計画しています。次回の大会も多くの参加をお待ちしています。



個人賞

優勝・日南上(左)
 沖野貴美子さん
 準優勝・余井(中央)
 二上紀久雄さん
 第3位・日南上(右)
 山野詔三さん



団体賞 準優勝 日南上Aチームの皆さん



団体賞 優勝
 市裏チームの皆さん



団体賞 第3位 末石Aチームの皆さん

日南下行政区 霧切谷ウォーキングと水車米を食べよう会

11月23日に日南下行政区では、当振興会が整備した「霧切谷」を歩いて「潜龍峡ふれあいの里」の水車でお米をつく様子を見学し、水車米むすびを食べる会を行いました。

当日は晴天に恵まれ、ウォーキングでさわやかな汗をかくことができました。

「霧切谷」の整備は、歴史街道を守る事と遊歩道として地域の皆さんに利用してもらうため実施したものです。今後、「霧切谷」をもっと利用していただく行事なども計画していきたいと考えております。



「潜龍峡ふれあいの里」中村憲吉の歌碑の前にて